

## 第4回 戦争の現場から。今、伝えたいこと

---

日時：11月13日（水） 午後7時～午後8時30分

会場：龍谷大学 大阪梅田キャンパス 研修室

講師：西谷 文和

フリージャーナリスト



### 講座概要

---

西谷さんはこれまでアフغانستان、イラク、シリアなど中東諸国の紛争地域を広く取材してきました。そこで見て知って感じたことをこの講座で伝えたいと言います。特に、メディアが伝えがらない事もあり、それは誰がそうさせているのか、どういう構造でそうなっているのか、さらにつきつめれば、戦争は誰の利益のために行われているのか、を現場からの視点で伝えてくださいます。

### 4年前のアフغانستان取材で見たこと

---

タリバン政権と米軍以下の外国軍が戦っている。不衛生極まりない避難民キャンプにどんどん人々が逃れてくる。タリバンの攻撃も、外国軍の空爆も、多くの民間人犠牲者を生みだしている。アフغانستانの全土に地雷が埋まっている。というのも地雷の値段はわずかに1個300円だから。なぜこんな安価でかつ危険なものが大量に生産されているのか。それが売れるからであり、売って儲かる製造者がいるからだ。

病院を取材し、劣化ウラン弾の被爆によると推定される先天異常や白血病患者を見た。劣化ウラン弾は超硬度の弾頭となるため戦車の破壊用に使われた。破裂後にウランが飛散し、住民が被爆している。そして子どもたちや次の世代まで放射能の被害に合っている。

### 2年前のリビア取材で見たこと

---

カダフィ政権側と反カダフィ側が戦っている。街は大地震や大津波よりももっとひどく破壊されている。カダフィは主にロシア製、反カダフィはヨーロッパ諸国、トルコ、イスラエルなどで製造された武器を使っている。どちらの側も大量の武器を所有している。爆発した弾だけでなく不発弾も多く残っている。その中で、クラスター爆弾はおもちゃに似ており子どもがよく拾ってその犠牲になっている。どちらの側も犠牲者を大量に出しているのだが、ここには一人勝ちしている当事者がいる。それは誰だろう。

## 今年3月にシリア取材で見たこと

---

シリア内戦はこれまで見てきたどの戦場よりも悲惨だ。どちらの側にも強力な武器がふんだんに供給されている。3年前の当初は平和的なデモで始まったはずの反アサド政権抵抗運動が、内戦となりここまで激化したのは、誰もシリア国内への武器の流れを止めようと立ち上がらなかったからではないのか。よく、シーア派の一派アラウィ派であるアサド政権と、スンニ派が主体である反政府側との宗教対立だと言われるが、それは的外れな意見だ。元々、両派はゆるやかに連帯して交じり合って住んでいたのだ。むしろ紛争の根は二派を分断させ対立を内在させようとした旧宗主国フランスの置き土産にあると言うべきだろう。

### 本当の勝者は誰かを推定する。そしてメディアの報道を疑う

---

米軍であれ多国籍軍であれ、彼らも犠牲を出しているので勝者ではない。まして悲惨な内戦のどちらか側でもない。先にのべたように、1個300万円の地雷、1発数千万円のみ사일、副産物として劣化ウランを出しているウラン濃縮、これらを製造している武器業者・武器商人が一人勝ちしているのではないのか。彼らは財力があるのでメディアを動かすことができる。メディアの側もスポンサーとしての彼らに対し従順だ。

ウラン濃縮を進めれば核兵器を製造できる。中程度に濃縮すれば原発の燃料を製造できる。副産物として劣化ウランも製造できる。このように、核と原発の根っこは同じ。このことを報道したかったが、実現化できなかった。その理由は、各電力会社はテレビ局にとって大スポンサーだからだ。

米国であっても国民の多数の反対を押し切って戦争に参加はできない。そこでこれら武器商人はメディアを使って世論操作を行う。1990年に米国が湾岸戦争に突入したきっかけとなったクウェート人少女のテレビ証言がある。これはでっちあげ証言として後々暴露され、有名になった。広告代理店が案をまとめ、駐米クウェート大使館関係者の娘でクウェートで育ったことのない少女が、イラク兵の残虐行為を目撃したと証言したのだ。世論操作は成功し、米軍のクウェート派兵は国民に支持された。これは昔の話にたとえれば、大本営発表みたいなものとも言える。

私たちはメディアの報道をそれがすべての真実であると単純に信じこんではいけない。報道されていない事実があるのではないかと疑いをもって回りを見渡すことが必要だ。なぜならテレビを通じた世論操作は簡単に行え、またメディアに対して影響力や圧力をかけられる人たちが現実にそこにいるからだ。

### 犠牲者にならない、出さないために

---

どんな戦争であれ、武力行使により犠牲者が生まれることを覚えておきたい。この20年、自衛隊の海外派兵が続いている。イラク戦争では航空自衛隊が米兵をクウェートからバグダッドまで輸送した。これまでのところ、この行為も違憲ではないと「解釈する」ことで通されてきた。今、さらにこれを一歩進めて、集団的自衛権行使も合憲と解釈しようという動きが安倍政権にある。これについては十分注意を持って見ておく必要がある。そのような武力行使は必ずや犠牲者を出すのだから。